

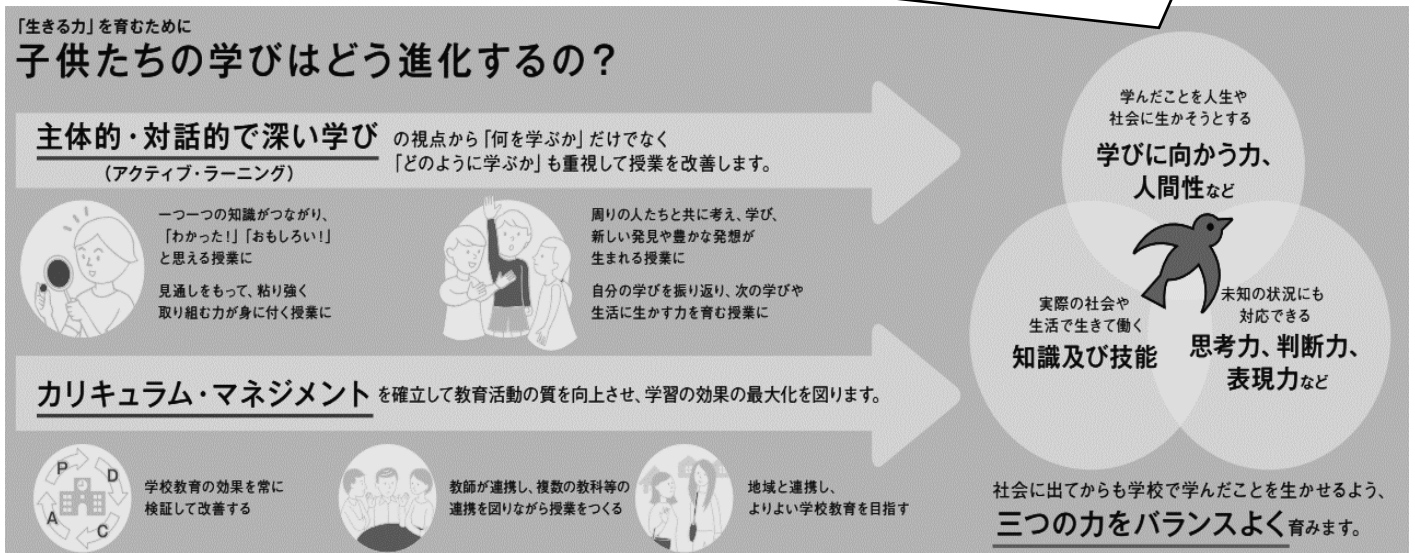
新学習指導要領と西中学校の評価・評定

1 新学習指導要領について

新しい学習指導要領(学校で「何を?」「どのように?」教えるかの基準になるもの)に基づいた教育課程(カリキュラム)がスタートしました。

ポイント 各教科の観点別評価が4～5観点から3観点に変更になりました。

学習する子供の視点に立ち、育成を目指す資質・能力の要素を三つの柱で整理したものです⇒ 各教科の評価・評価も、この三つの柱(観点)に基づくものになります。



文部科学省「新しい学習指導要領リーフレット」より引用

2 評価と評定とは?

(1) 評価とは・・・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の各観点について、3段階(A・B・C)で評価したものです。

A	十分満足できる
B	おおむね満足できる
C	努力を要する

Q. どうやって、評価するのか?

A. 各教科で観点ごとに評価します。学校における学習活動が評価の基本です。
(例) 知識・技能 ⇒ 定期テスト、小テスト、単元テスト、作品、演奏等
運動・作業の様子 パフォーマンステストなど

Q. 「A・B・C」は、どうやって決めているの?

A. 各教科で、各観点の達成度を設定し、それに基づいて評価を出しています。
(例) A: 達成度 80%以上 B: 50%以上 C: 50%未満

(2) 評定とは… 各教科の学習の状況を、総合的に判断して、5段階(5・4・3・2・1)で算出したものです。

5	十分に満足できるものうち特に程度の高いもの	A
4	十分満足できる	
3	おおむね満足できる	B
2	努力を要する	C
1	一層努力を要する	

Q 「観点別評価 (A・B・C)」と「評定 (5・4・3・2・1)」の関係はどのようになっていますか？

A 「A・A・A」の場合は「4」または「5」
 「B・B・B」の場合は「3」
 「C・C・C」の場合は「2」または「1」となります。
 それ以外の組合せの場合は、適切に総合して判断します。

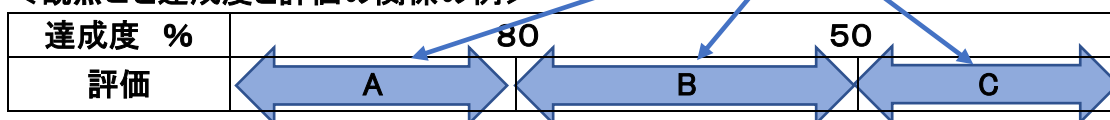
Q 「観点別評価 (A・B・C)」が4～5観点から3観点になったことで、「評定 (5・4・3・2・1)」に、どのような変化がありますか？

A 観点が3つになったということは、1つの観点別評価 (A・B・C) が全体の評定に占める割合が大きくなったということです。同じ観点別評価 (A・B・C) でも、達成度の幅がより大きくなり、評定の差異も大きくなります。

Q. 同じ「A・A・A」でも、「4」と「5」があるのはどうしてですか？

A. 同じA (またはB・C) でも、達成度には大きな幅があるからです。

<観点ごと達成度と評価の関係の例>



<総合達成度と評定の関係の例>

総合達成度	90	80	50	20	
評定	5	4	3	2	1

(例)

	観点1	観点2	観点3	総合達成度 と評定	ポイント
X	80	80	80	80	<XさんとYさんの比較> 同じ「A・A・A」なのに、このように評定が異なることがあります。 <XさんとZさんの比較> 二人の観点別評価の組合せは異なりますが、総合達成度で見るとともに「4」の評定になります。
	A	A	A	4	
Y	95	95	95	95	
	A	A	A	5	
Z	90	85	75	83.3…	
	A	A	B	4	

・学年末評定(調査書に記載される成績)は、各学期の評定を基に総合的に判断します。各学期の評定が「4・4・4」ならば学年末評定は「4」になります。「4・5・5」の場合には、「4」か「5」のどちらかになります(必ずしも出現率の高い評定になるとは限りません)。